

この冊子は、日本女子大学家政学部住居学科の学生がみた雑司ヶ谷地域の魅力を紹介するために、雑司が谷未来遺産推進協議会の活動の一つとして作成したものです。

二〇二二年三月 発行

表紙デザイン 北原理史



ぞうしガヤガヤたんけん

〜女子大生と寮編〜

編集委員

沖田 茉裕子

小野 詩織

北原 理央

中川 晴賀

中野 結香

執筆委員

岩上 綾夏

梶座 凜

高村 結加

中村 真沙美

鈴木 舞衣

高橋 和佳

安本 萌恵

林 千紗

協力

薬袋研究室

2016年は建築遺産を生かしたまちづくりについて検討し、2017年から建築遺産をつなぐ道案内の在り方について取り組んできました。

建築遺産をつなぐ「雑司ヶ谷の歴史をたどる道」とは？

雑司ヶ谷には、数々の建築遺産や文化的スポットがあり、多くの方が訪れます。しかし、雑司ヶ谷は閑静で穏やかな住環境も魅力の一つとなっています。雑司ヶ谷未来遺産推進協議会は、雑司ヶ谷で暮らす人々の生活を守りながら建築遺産等を楽しめるようにするために、建築遺産をつなぐ道の在り方について取り組んでいます。

2017年よりシンポジウムやワークショップを通して道案内の在り方の検討を続けています。2022年度からはついに、案内サイン設置に向けた取り組みを進めていく予定となっています。



社会実験・アンケートの実施

事前準備として、2021年度は雑司ヶ谷らしい道案内の在り方を検討するための社会実験が行われました。地元住民の方、協議会委員、日本女子大学の学生が協力して設置・アンケート配布をしました。アンケート用紙及びQRコードを通して、計134件の回答がありました。

実施期間：2021年11月22日(月)～12月5日(月)

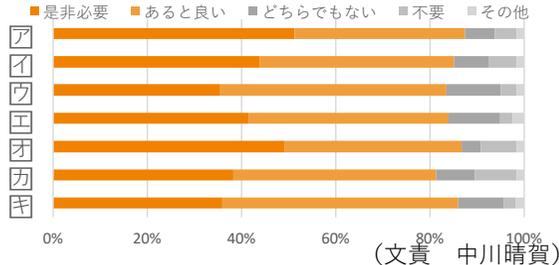
設置箇所：雑司ヶ谷霊園内及び周辺

都電荒川線鬼子母神前停留場・雑司ヶ谷停留場・東池袋四丁目停留場
環状5号線・目白通りなど



路面サイン 公園フェンスを利用した地図と誘導サイン 都電荒川線停留場に設置した誘導サイン

【雑司ヶ谷霊園内の案内サインの必要度 アンケート結果】



雑司ヶ谷未来遺産推進協議会とは・・・

日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に2014年に選ばれたことがきっかけで2015年に設立されました。千年以上の歴史と文化をもつ雑司ヶ谷の魅力の後世に受け継いでいくために、雑司ヶ谷と関係の深い団体等が将来像を共有し、相互に連携をしながら活動をしていくことを目的としています。

雑司ヶ谷未来遺産推進協議会の活動内容

雑司ヶ谷未来遺産推進協議会は、さまざまな活動をしています。今回は3つの取り組みをご紹介します。

1. フォトコンテストの開催



雑司ヶ谷の魅力の後世に伝えていくために、雑司ヶ谷フォトコンテストを開催しており、今回で6回目の実施となりました。毎年数々の力作が揃い、盛り上がりを見せています。ホームページでは過去の受賞作品をみることもできるので、ぜひチェックしてみてください。

詳しい内容はHPをチェック!
HP: <http://zoushigaya-mirai.tokyo/>
Instagram: @zoushigayamirai

2. おすすめスポットの紹介

ホームページでは、雑司ヶ谷の建築遺産はもちろん、学生目線でのおすすめスポットもご紹介しています。知る人ぞ知る雑司ヶ谷の魅力をつぶり発信しているので、必見です！お散歩マップのダウンロードもできるので、これを手には、雑司ヶ谷の新しいスポット探しに出かけてみませんか？



3. 雑司ヶ谷の建築遺産を活かした道案内の検討

雑司ヶ谷は魅力的な建築遺産が多く、それらを訪れる来街者も増えてきています。一方で閑静な住環境を守りたいという声も多数あります。建築遺産の活用と豊かな住環境の保持の共存を目指し、活動をしています。皆さんもぜひご意見お寄せください。



あなたは知ってる...?

緑のこみちの会



南池袋の住宅地の中に位置する雑司ヶ谷霊園。園路の随所に植えられた草花が癒しを添え、周辺の生け垣は住宅地と霊園の境目をぼかし、開けた印象を与えています。この豊かな自然は「緑のこみちの会」の人々により守り、育てられています。

緑のこみちの会は、霊園の生け垣の管理保護や周辺の清掃、花の植え付けを中心に、毎月第4土曜日9時30分から活動されています。近頃は活動の幅が広がり、霊園内のお休み処の管理や小学校との共同プロジェクトなども行われています。



以前、雑司ヶ谷霊園の避難上の問題として、万年塀による仕切りが挙げられていました。東京都と豊島区、地域の方達で話し合いを重ねた結果、墓地内の歩道を整備し生け垣を作ることが決定。そして、豊島区公認で歩道の設置や生け垣を管理する団体として、1999年に豊島区内で緑のこみちの会が発足しました。

避難路の確保を目的として始まった活動が、今では雑司ヶ谷の歴史と文化を守り、街並みを形作ることに繋がっています。2014年、雑司ヶ谷地区が「プロジェクト未来遺産」に登録された際にも、選出理由の一つに緑のこみちの会の活動が挙げられました。



万年塀



生け垣

Q.緑のこみちの会の活動を知ったきっかけや、参加の動機は？

最近ハマっていたラジオ体操で知り合った方に、声をかけていただきました。純粋に花が好きで、霊園の水やりを勝手にやっていたことをきっかけに、こみちの会に誘われました。

Q.小学校との共同プロジェクトについて詳しく知りたいです！

学校の先生に依頼された事がきっかけで、小学3年生の子どもたちと活動しました。総合的学習という授業の時間に、水仙の球根を植えたり、彼岸花を植えたり、落ち葉の掃除をしました。

Q.植える花の種類はどのように決めているの？

お花に詳しいMさんが種類を決めてくださいます。時々、お花を育てている方からお裾分けしていただくこともあります。

植え替えは半年に1回。夏用花壇はゴールデンウィークに、冬用花壇は11月末～12月上旬に作ります。

Q.印象に残っている活動はありますか？

やはり、小学生との活動が印象的でした。水仙の球根を植えることをメインとしていたのに、子供たちが意外にも落ち葉掃除を楽しんでいました。大きな竹ぼうきを使うことが面白かったように見えました。指定した範囲を超えて積極的に掃除しようとして、驚きました。

写真： 雑司ヶ谷未来遺産推進協議会 | IKE-CIRCLE (<https://www.city.toshima.lg.jp/ike-circle/culture/event/zoushigaya-mirai.html>)
雑司ヶ谷のまちづくりの成果 (<http://zoshigaya.org/seika01.html>)

(文責 中野結香)

旧雑司ヶ谷町を訪ねて

日本少年寮記念の家

日本少年寮記念の家が売却されたことをきっかけに、歴史ある建物の間取りや家具の図面とヒアリングの調査を行うこととなった。

日本女子大学から徒歩5分程。細い路地の住宅街に佇む日本少年寮記念の家で、私たちは当時の生活に想いを巡らせることができた。

売却された記念の家

日本少年寮記念の家とは

明治四〇年にできた、親元を離れて東京で勉学に励む少年たちの施設である日本少年寮の卒業生が中心になって建てられた家。卒業生が集うことができるようなサロンの空間や、宿泊できる場所が設けられた。

寮の創始者は日本女子大学第一回卒業生の奥宮加壽子「おくのみやかずこ」で、創立十周年にあたる一九一七年には三〇名の少年中学生と、二〇名の青年専門校生が入寮していたようである。

奥宮加壽子とは



加壽子は土佐の出身で、父は藩の儒者であった。土佐の尋常師範学校を卒業した後は小学教育に従事していたが、二八歳の時に第一回生として日本女子大学に入学した。

加壽子が少年寮を経営するに至った理由は、学業を極めるために上京してきた青年が、下宿するにあたり風紀が乱れ墮落しがちな状況を嘆いたためであった。

寮生活では現代の修学旅行のような取組もしており、日本アルプスの高地に向け、約一〇日間のテント生活を送ることを企画し、寮生一六名を引率したという記録も残っている。(読売新聞 一九二二年七月十九日)

寮の機能

図書室、音楽室だけでなく化学実験室、印刷室、写真室などもあり、英語の会、音楽界など多くの催しもあった。寮は寝食を共にし、文化的な集団生活の場を目指していた。また、瞑想の時間を大事にする等、日本女子大学の寮生活の良さを取り入れていたそう。

調査の記録



玄関のタイルや
曲線のデザインが素敵...!



実際にあった家具。
寮生の方が手作りした
家具だそうです。



長押や玄関扉には
特徴的な仕上げを発見!

(文責 岩上綾夏)

近接する公園の連携整備計画についての研究

―雑司が谷の7つの公園を対象として―
安本 萌恵

住宅地の構成要素として都市公園は計画的に配置されています。児童公園として整備されてきた歴史から同じ遊具が置いてあるような公園が近接しており、活用されていない公園があるという現状があります。しかし高齢化社会やライフスタイルが多様化している今、様々な年齢層がライフスタイルに合わせた使い方のできる多様な公園が期待されていると考えます。研究対象の雑司ヶ谷は木造密集地域に指定されており、公園は防災だけでなく減少している庭の役割や緑のスポットなど貴重な資源です。よって本研究では、公園を十分に活用するために、近接する公園の住民の使い分け方の実態をアンケートで明らかにし、より地域にあった公園に整備するための方法を検討しました。

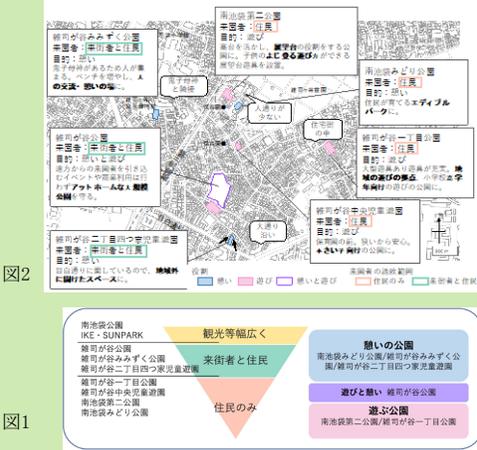


図1 図2

アンケート結果をもとに公園を二つの指標で分類しました。一つ目は誘致する人の対象範囲、二つ目は目的別による分類です(図1)。それを踏まえ、各公園の整備方針を提案しました(図2)。地域にある複数の公園で公園に求められる機能をすべて網羅するような提案になりました。このことから公園を連携整備する重要性を提示する研究結果となりました。

雑司が谷における滞留行動の現状と滞留場所

沖田 茉裕子

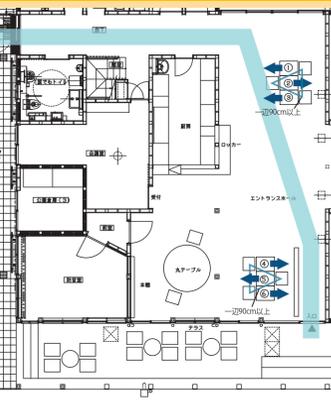
対象地(雑司が谷1,3丁目・南池袋3,4丁目内)を選定し、1,4日間わたって観察調査を実施した。

●立ち話の観察結果
年代ごとにとみると、60代以上の方による立ち話が最も多く見られた。性別で比較すると男性27名に対し、女性が約4倍の101名であった。



立ち話が見られた場所(年代別分布)

●立ち話が見られた場所
立地と空間に関する分類の結果、商店街や公園などの不特定多数の人が集まりやすい場所で見られた。また、大学敷地内の歩道状空地・寺社の境内等のような車通りが比較の少ない場所でも立ち話が多く行われていることが分かった。



雑司が谷公園丘の上テラスは地域の人に繰り返し使われ、気軽に集まれる場所です。高齢者を中心にコミュニティの場になっています。子どもやその親の世代も知り合いに会うケースが多いほか待ち合わせをして利用しているケースも多いです。こどもや高齢者に関してはその目来ることができるとして、遊んだり会話を楽しんだりするとても自由な関係性です。つまり丘の上テラスはサードプレイスとして定着していると言えます。そこで、コミュニティを促進する設えを考えると、4つのレイアウトに変更し観察調査を行いました。

コミュニティを促進させるには人と人との距離を座席占有時間が長くなると言われている90cm以上にする、テーブルを繋げ相席状態を作る、通路向きの席を増やすといった特徴が必要であることがわかりました。また利用者にと長時間滞在させることが重要であると考えられます。さらに知り合いを見つけやすいようにする必要もあることもわかりました。

多くの人が交流できる場が増えていくことを願っています。

地域におけるサードプレイスの必要性とコミュニティを促進する設え

高橋 和佳

雑司が谷公園丘の上テラスは地域の人に繰り返し使われ、気軽に集まれる場所です。高齢者を中心にコミュニティの場になっています。子どもやその親の世代も知り合いに会うケースが多いほか待ち合わせをして利用しているケースも多いです。こどもや高齢者に関してはその目来ることができるとして、遊んだり会話を楽しんだりするとても自由な関係性です。つまり丘の上テラスはサードプレイスとして定着していると言えます。そこで、コミュニティを促進する設えを考えると、4つのレイアウトに変更し観察調査を行いました。

コミュニティを促進させるには人と人との距離を座席占有時間が長くなると言われている90cm以上にする、テーブルを繋げ相席状態を作る、通路向きの席を増やすといった特徴が必要であることがわかりました。また利用者にと長時間滞在させることが重要であると考えられます。さらに知り合いを見つけやすいようにする必要もあることもわかりました。

多くの人が交流できる場が増えていくことを願っています。

アンケート集計結果 (n=202,複数回答)

走り回る	64
かくれんぼ	16
おにごっこ	120
話しながら歩く	94
ボール遊び	77
乗り物遊び	92
なわとび	28
チョークで落書き	7
ラジコン	2
その他	44

アンケート集計結果 (n=197)

公園	96
自分の家の前の道	18
友達の家前の道	11
通学路	7
校庭	7
その他	63

空き地の減少やボール遊び禁止の公園の増加などを原因に、自由に遊べる場所が減少しています。近年では子どもの道遊びを騒音や安全性を問題に迷惑と感じる人も増えています。子どもの遊びが騒音問題や安全面で問題視されているという現状を踏まえ、「道路族マップ」から子どもの遊びが迷惑とされる環境をあげ出すとともに、子どもも遊びが迷惑とされる環境に遊んでいるのかを調査しました。

「道路族マップ」から、狭い道路など交通規制や道路構造により通行が制限されている場所が子どもの遊びが苦情に発展しやすい環境であることがわかりました。狭い道路では車通りが少ないために道遊びが発生しやすい一方で、道の狭さから音が響きやすくなり、道と家との距離が近く音が家の中まで届きやすいために迷惑とされやすいのではないかと考えられます。

アンケート調査の結果、雑司ヶ谷周辺に住む子どもたちは鬼ごっこや話しながら歩くことを好んでいることがわかりました。道が二番目に多い結果となりました。

公園に代わる遊び場として自分の家の前の道が利用されている一方で、道での遊びは迷惑とされることも多く空間を広く利用するような遊び方は人や車との接触の危険があります。ボール遊びや乗り物遊びなど迷惑とされやすい遊びは公園での規制を緩和し自由に行えるようにするとともに、迷惑になりづらい遊び方については指導を前提に道でも行えるようにすることが子どもの自由な遊び方を促進するのではないのでしょうか。

1950年代以降建設されたマーケットについて
 ー 雑二ストアーを対象としてー 林千紗
 マーケットとは

マーケットとは、複数の店舗が集めた低層の商業施設で、①「ヤミ市由来のマーケット」と②「1950年以降も日常的な買い物場として作られたマーケット」の2種類に分けられます。雑二ストアーは②に当てはまります。

①は戦後ターミナル駅や周辺に闇市として発祥し、生活に必要な物を売買していました。現在では飲食店を中心とした店舗が残るマーケットが存在しています。

(例) 新宿思い出横丁、三軒茶屋

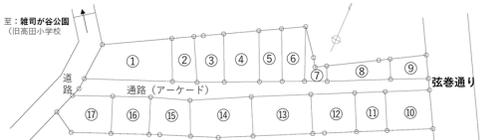
②は1950年以降も住宅地の形成が進む際に不足していた、日常的な買い物を行なう場として作られたマーケットが存在しています。

(例) 雑二ストアー、初音小路、味楽百貨店 など



現在の雑二ストアーの様子

<最盛期の店舗の様子>



番号	店舗内容	⑨	富士薬局 (縮小していった)
①	建て主	⑩	肉屋 (②⑬と同じ)
②	肉屋 (⑩⑬と同じ)	⑪	文房具屋
③	変化あり (現在青果店使用)	⑫	おもちゃ屋
④	クリーニング屋	⑬	日用品・食料品
⑤	靴屋 (主に靴修理専門)	⑭	青果店
⑥	パマ屋から駄菓子屋	⑮	肉屋②⑩と同じ
⑦	傘屋 (専門店)	⑯	荒物屋・手芸屋など
⑧	用品店	⑰	瀬戸物屋

雑司ヶ谷の気になる場所を調べてみました

千登世橋・千登世小橋の これまででこれから

千登世橋とは

目白通りと明治通りが交差する地点にかかる、東京で最初の立体交差橋です。昭和8(1933)年に竣工し、今年で89歳を迎えるこの橋は東京の著名橋にも指定されています。

この橋は、明治通りを跨ぐ千登世橋と、都電荒川線を跨ぐ千登世小橋があり、開通当初から自動車や乗合バス、自転車や人が行き交う交通の要所として豊島区の発展とともに地域住民の生活を支えてきました。

デザイン

アーチがとても美しく、橋灯(写真1)や高欄にはクラシカルなデザインが見られます。親柱(写真2)も直を基調としたアルドコ調で、橋上の目白通りからも存在感のある目印となっています。



写真1 橋灯



写真2 親柱

〈雑二ストアーとは〉

住所は豊島区雑司が谷2丁目22で、弦巻通りと雑司が谷公園をつなぐ動線上にあり、二面接道となっています。1954年〜1960年頃に建設され、店舗併用住宅の木造長屋が3棟並び、通路が木造アーケードになっています。

弦巻通り商友会に属しており、現在青果店1軒のみが営業を行っています。最盛期には多様な12店舗程があり、夕方頃は人がすれ違うのがやっとなほど、賑わいを見せていました。

〈雑二ストアーの空間的特徴〉

権利者の方の協力のもと行った建物の実測調査から、以上の特徴が明らかとなりました。

◇外部空間の特徴

- ① 木造アーケードによる通り抜け通路
木造アーケードにより雨の日などは濡れずに買い物や通行することが出来る。
- ② 営業内容に合わせた店舗づくり
営業内容に合わせて外観から計画されていた店舗と、様々な用途に応じて利用することが可能である店舗の2種類があったと推測。



アーケードの様子



店舗の様子



竣工当時の様子 (写真: 東京都建設局提供)



現在の様子 (文責 小野詩織)

千登世橋の今後

現在千登世橋付近から豊島区役所付近に至る、都電の線路を十数メートル移設する大規模なトンネル工事が行われています。

この工事では池袋と新宿付近にバイパス道路を作り、混雑を緩和することを目的としています。そのため、千登世小橋の下にある都電荒川線の地下にトンネルができ、その下を副都心線が走る立体構造になります。橋は取り壊されずに残るそうです。

ちなみにこの工事は今から90年以上前、昭和初期に計画された環状5号の未開通区間にあたります。開通時期は未定とのことですが、立体交差橋の先駆けである千登世橋竣工と同時代に計画されていた道路が現代に完成し、さらに立体的な交通網が作られるというのはロマンのある話ではないでしょうか。